

# 高小だより

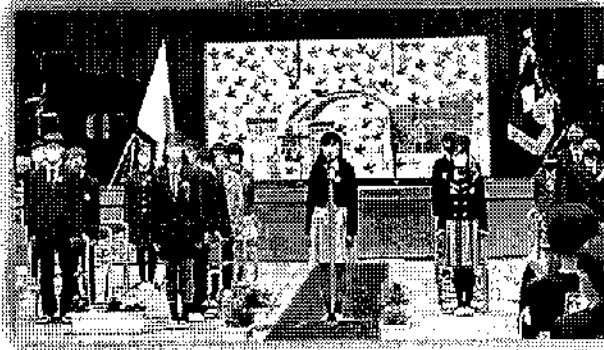
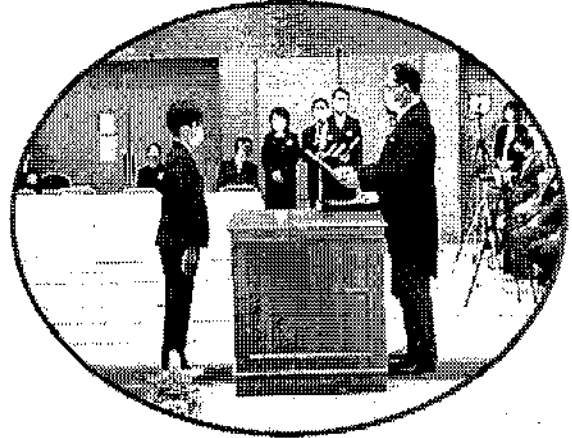
令和3年度 校報 15号  
 令和4年 3月24日  
 高尾学園 高尾小学校  
 文責：校長 平瀬 佳夫

## 卒業おめでとう

3月18日に卒業式を挙行了しました。列席者は、卒業生と保護者、教職員だけで、在校生や来賓のいない少し寂しいスタイルになって、三度目の卒業式です。

下級生は、会場、教室や廊下の飾りつけの活動を通じて、卒業生に対する感謝の気持ちを表しました。卒業生は、下級生の気持ちを受け止め、ピンと張りつめた雰囲気自分たちで作り出し、凛(りん)とした態度で卒業式に臨み、区切りの儀式にするべく、立派に証書を受け取りました。

式辞に込められた思いを感じとり、それに答えるように気持ちのこもった『別れの言葉』を返してくれました。退場の際には、リモートで5年生が自宅から見送りに参加してくれました。また、4名のひびきあい委員の方からは、保護者を代表して『お祝いの言葉』を送っていただきました。親の思いを感じ取ったその表情には、中学校でのさらなる成長を誓っていることが覗(うかが)えました。引き続き、保護者・地域の皆様には、彼らの活躍を見守ってやっていただきたいと思ひます。



### 【式辞から抜粋】

コロナウイルスから身を守るために、いろいろな制限の中で、5年生6年生の2年間を過ごしました。フローティングスクールや修学旅行、運動会や縦割り集会など、楽しみにしていたいろいろな活動が、中止になったり、縮小したりしなければなりません。その度ごとに、残念な気持ちがあったことでしょう。

でも、貴方たちの日常を見ていると、そうした制限に健気(けんげ)に耐え、受け入れながら学校生活を過ごしていたことがよくわかります。

運動会を盛り上げようと、応援合戦では下級生をよく指導し、リーダーシップを発揮しました。陸上記録会は中止になりましたが、校内記録会として計画し、自分の力を試す機会を、自分たちの手で開催しました。また、一泊二日の修学旅行は実現できませんでした。その代わりに日帰り旅行で行った奈良では、法隆寺で見上げた五重塔の高さや、東大寺の大仏の大きさに驚かされ、悠久の歴史に触れることができました。また、大津では、テーブルマナー研修で、おいしい料理を味わい、ゲームやスポーツを友達と一緒に楽しみました。

出来なかったことに対する、悔やお気持ちは消えることはないでしょう。

野菜や果物は自然環境が厳しいほど、生き残るための養分を蓄えると聞いています。今年の厳しい寒さに耐えた野菜や果物は、きっとおいしいことでしょう。……コロナウイルスのための日常生活のさまざまな厳しさに耐えた貴方たちだからこそ、この2年間の経験は、目には見えないけれど、大人になるための大切なものを見つける機会となったことでしょう。

(裏面へ続く)

今年の夏には、コロナ禍のため一年延期された『オリンピック TOKYO2020』が開催されました。  
 (中略) 四百メートルと二百メートルの女子個人メドレーの二種目で金メダルを獲得する快挙を成し遂げた、滋賀県出身の大橋悠依さんは、優勝インタビューで「不安もあったが自分のレースをしようと自分を信じて泳いだ。いろいろなことがあったが、チャレンジさせてもらえて、支えてくださった方々に感謝している」と、自分の努力と周囲の支えが金メダルにつながったと振り返っています。また一方、野球界でもメジャーリーグの大谷翔平選手が、投打二刀流で大活躍し、年間最優秀選手賞を受賞するほどアメリカでもスター選手に成長しました。  
 (中略) 大谷選手は、……目標達成のためには人間性を高めることが必要だと気づき、「信頼される人間」「継続する力」「礼儀」「思いやり」などの人間性を鍛えるための言葉の一つに「感謝」という言葉を書き上げました。そして日々の生活や練習においてそのことを常に意識して、自分の成長につなげられました。  
 (中略)  
 目標を達成するために自分自身を信じ、継続して努力を積み重ねていくことは勿論です。しかしそのことだけでなく、自分のチャレンジを支え、応援してくれる周りの人たちに『感謝』することを忘れてはなりません。今年を代表する二人の活躍は、私たちにそのことを伝えてくれているのではないのでしょうか。  
 人から言われて一番嬉しいのは、「ありがとう」という言葉だという話をしました。夢を実現するためには、高い志を持ち、挑戦し続けることだけでなく、目には見えない感謝する気持ちを「ありがとう」という言葉に変えて伝えられる人であってください。  
 では、卒業生の皆さん、自分の夢に向かって歩いてくれることを願います。

### \*\*学校運営協議会から\*\*

去る3月11日(金)に今年度最終の学校運営協議会を開催しました。北村一博委員長はじめ、門地 聡副委員長、川那部京子委員、山本永子委員、南寄利典委員、の5人の委員には、学校運営について、毎回熱心にご議論いただき貴重なご意見を頂戴しました。この一年間の学校運営について以下の内容に従いご意見をいただくとともに、次年度の方向性についてもお示しいただきました。

#### ◎小中一貫教育の推進と充実について:評価B

- ・地域学校協働活動が充実し、多くの方が学校で活動していただいている。一部の保護者の活動はあるが、さらに保護者も巻き込んだ活動ができればよい。
- ・例えば、地域企業、空き家、発酵食、棚田、高齢化などの、地域課題を学習に取り入れてみる。
- ・高齢者との交流を充実させてみる。絵手紙による交流は、好評であった。

#### ◎学力の向上について:評価B

- ・読書には、保護者の協力が必要である。以前のノースクリーンデーの取り組みがあると、家庭での読書機会になる。
- ・オンラインによる授業で、子どもたちがどれくらい授業に集中できていたかを検証する必要がある。
- ・時間で測る家庭学習(学年×10分)という方針を改めた方がよい。毎日のように宿題を与える取り組みでは、指示待ち人間を育てることにしかない。
- ・家庭学習の取組が十分にできていない。次年度数値が上がるような工夫が必要である。

#### ◎豊かな心の育成について:評価B

- ・コロナ禍で文化芸術に触れることは難しいと思うが、生の芸術に触れる体験は心の豊かさを育む大事な機会であり、検討すべきである。
- ・道徳は、他の行事と関連付けて実施できると、学習が充実する。
- ・児童理解のための教育相談や、生徒指導が十分に行われていたかは、報告がなく不透明である。

#### ◎豊かな人間関係づくりと社会の育成について:評価A

- ・子どもたちは、縦割り活動や委員会活動を楽しみにしている。感染予防をしながらの活動は困難さもあるが、工夫して実施されていた。
- ・あいさつの充実や、言葉遣いに気をつけることが、いじめの未然防止の第一歩になる。
- ・「友達を大切にしたい児童 95%」「いじめがなく学校生活が楽しい児童が 95%」であったが、残り 5%の声を聞き落とさないようにしたい。
- ・保護者と学校の間に距離がある。コロナ禍だからこそ工夫した取り組みを期待したい。

#### ◎体力・健康づくりの推進について:評価A

- ・コロナ禍で、TV、PC、ゲームの時間がとても増え、コントロールできていない。PTAと連携して視力を大切にすることが必要である。
- ・コロナ禍でうがいや手洗いなどの子供たちの健康を保つ行動は定着している。